

## 第39回中国・四国保健管理研究集会 番外編！

研究集会といえば開催地の自然や文化に触れるのも楽しみの一つですね。愛媛大学村上さんからたくさんの写真が届きましたのでご紹介します！ 研究集会に参加された方も、参加されなかった方もどうぞお楽しみください。



(写真①)



(写真②)

(写真①、②) 鳥取砂丘は会場からタクシーで15分ほどのところですが、なんてたって裸足が一番！ 早朝でしたのでほとんど人がいませんでした。風がとても強くて砂の上でできた足形があっという間に細かな砂で埋もれていきます。青く、藍よりも深い海の色も印象的でした。





(写真③)

(写真③) 駅前の電話ボックスの屋根で見つけました。かわいいでしょう？



(写真④)

(写真④) 鳥取は学生にもやさしい町です。鳥取大学保健管理センタースタッフを見ればわかるよね！





(写真⑤)

**(写真⑤) 海の幸・山の幸はもちろんお蕎麦や果物もたくさん! 「ハタハタ」がめずらしかったですよ。**



(写真⑥)

**(写真⑥) 麒麟獅子をかたどったベンチです。違うデザインのを3つ見つけました。アーティストはどなたでしょうか?**





(写真⑦)

(写真⑦) 麒麟獅子頭部の拡大写真です。力強い彫りですね。



(写真⑧)

(写真⑧) 矢印をたどっていくと・・・





(写真⑨)

(写真⑨) 少し見上げる形で民芸館の小さな入り口がありました。ここは昭和初期に民芸運動を進めていた吉田璋也（よしだ・しょうや）が開設した鳥取民芸美術館です。吉田璋也は鳥取市の耳鼻咽喉科医師でした。この日は休館日でしたが、偶然職員の方がいらっしやったので、快く入館させていただきました。ラッキー！！



(写真⑩)

(写真⑩) 左隣は商店街の入り口。右隣の似たような建物は、アンティークを取り扱う洒落たお店でした。建物自体は古いものではありません。





(写真⑪)

(写真⑪)「秋葉(あきばえ)」, 新品種の梨です。教育講演で紹介していただきましたので早速買って食べました。とても甘くて「バッチグー」。江戸時代の梨は、フルクトースが多いので、食べた時は甘く感じるけれども甘さが後をひかない。秋葉は、フルクトースは少ないが、より強い甘さを感じさせるスクロースが多いので、食べた後でも甘さを感じるとのことでした。



(写真⑫)

(写真⑫) 鳥取名物、これもおいしかった!





(写真⑬)

(写真⑬) 白兔会館のまん前にひなびた骨董屋さん。商売っ気のなさそうなおじさんがいました。

